網走ほんりゅう教組

第423号
網走教職員組合
〒090-0052
北海道北見市北進町4丁目5－31
TEL0157(31)7551
FAX 0157(31)7559
7月14日

# 「戦争法案」に反対する街頭署名活動

「政府の説明は足りない」という大多数の国民の声を無視し、「国民の理解が進んできたと思う」と安倍内閣は言いました。そんな中で「戦争法案」が強行採決されようとしています。「またやられるのか～」と、落胆する声が聞こえてきそうですが、廃案に向け、私たちのたたかいを、決してあきらめてはいけません！「戦場に子どもたちを」決して送ってはいけないのです。内閣支持率も「不支持」が「支持」を上回ってきました。戦争法案の廃案と安倍内閣の退陣をセットで求めていくたたかいを進めていきましょう。

七月四日(土)、雨の降る中、網走教組として「戦争法案」に反対する街頭署名活動をコープさっぽろ北見みわ店の軒下をお借りして行いました。北見支部からは佐野支部長をはじめ四名、遠軽からも小林組合員が参加し総勢五名の組合員で一時間超の時間、署名活動を行いました。出だしは反応の悪さを感じましたが、こちら側も慣れてくると、署名に応じていただける方も増え、全部で一一二筆を集めることができました。

署名活動をしていると、中には「俺は賛成だ！」という方がいたり、「いいです」という方もいましたが、「私は戦争経験者だけど、あんなこと二度と繰り返してはならないよ。」という声や、「戦場に子どもや孫を送り込むなんて絶対いやです。」という声とともに、「がんばってね。」と励ましもいただきました。自衛隊員の関係者の方も迷いながら、でも「戦争は反対」と署名をしてくれました。

七月十八日（土）にも一〇：三〇～一二：〇〇まで、同じくコープ北見みわ店で街頭署名の第二弾を行います。是非、多くの組合員の参加をお持ちしています。

## ストップ！戦争法案7．3北見集会

自公連立与党による安保法案の強行採決を防ぎ、廃案を目指すべく「ストップ！戦争法案７．３北見集会」が北見駅前広場で行われました。各団体からのスピーチの後、総勢１００名を超える参加者とともに市内をデモ行進しました。私たち網走教組のスローガンである「教え子を再び戦場に送るな」という思いをさらに強くしました。

この日網走教組からは６名が参加し、久々にたくさんの人数でデモ行進をすることができ、この法案に対する意識の高さが伺えました。今後も政治の動きを注意深く観察していくとともに、こういう活動を一過性のものにせず、大きな運動として継続していくことが大切ではないでしょうか。

## 教職員投票の取り組み

**戦争法案反対！**

戦争法案は許せない！目に見える形でノーを突きつけなければ気が済まない！と各分会の取り組みとして戦争法案反対に賛成ならば欄に○を、さらにコメントしてもらう取り組みを行いました。状況とコメントは下記の通りです。

**北見西小分会　20枚全て○**
- 教え子を再び戦場に送るな！
- 子どもたちに教えたい!!大変なことなんだ、ということを。
- 戦い無くなる世の中が来てほしいものです。
- 子どもたちを戦争から守りたい！
- やっぱり不安！
- 平和のための戦争(武力行使)などありません。

**北見中央小分会　10枚全て○**
- 子ども達に平和な未来を手渡すのが、私達大人の責務です.
- 憲法を改正して、「やっぱり、戦争しません!」とすればいいのです。
- 過ちを繰り返すな！
- 真摯に歴史に向き合い、憲法の精神を尊重し、平和実現へと努力を重ねよう！
- 未来を生きる子どもたちのために「日本国憲法」の理念に基づいた平和な社会を実現しなければなりません。思いは一つです。

**北見北中分会　5枚全て○**
- 戦争は絶対にしてはならない。だから、憲法9条は、その意味をきちんと考えなければならない。
- 子どもたちが暮らしてゆく世界を今より少しも戦争に近づけたくない。
- 話し合いで解決してほしい!!そのための政治家ではないのですか？
- 戦争に向かう方向の考えは絶対に反対です。全国民の意見を無視しないでほしい。

**遠軽南小学校分会　8枚全てに○**
**上湧別小学校分会　1枚に○**

## オホーツクまなビバ

## 遠軽支部に出向いて

七月十一日（土）、遠軽家庭学校（望みの岡分校）で、第四二回まなビバが開催されました。今回の「まなビバ」は、「北見だけではなく、いろいろな地域で開催しよう。」という、年度当初の方針に基づき実施されたものです。今回の「まなビバ」には、遠軽支部からは三名の組合員が参加してくれました。全体としては五名の参加にとどまりましたが、充実した実践交流ができました。この日は、今年になって最高気温を記録する猛暑日でしたが、会場内は日が入らないということもあり、暑さを感じることなく話し合いに集中することができました。また、初めて会場となった家庭学校にも興味を引かれながらの「まなビバ」となりました。

レポートは、北見中央小学校の大坪先生から「ことばの教室の子どもたちの様子とその実践報告」と、遠軽南小学校の小林先生から「小学校1年生の体力がない子の指導について」という2本が出されて話し合いが行われました。

大坪先生のレポートは、通常学級にいるとなかなか知ることができない言語通級の活動の様子を知るよい機会となりました。子どもたちとの信頼関係づくりに中心に据えて、通級してくる子どもたち自信が自分の苦手や困難と向き合えるように活動をつくっていく様子が語られました。このレポートをもとに、子どもたちの困難さをしっかり受け止め、支える教師になるために必要なことは何かの話し合いを行いました。

また、小林先生のレポートでは、学級の中の体力のない子どもの様子が語られました。その後、体力がない原因がどこからきているのかについて、みんなで話し合いました。レポートを持たずに参加した人たちからも、自分の学級や学校の様子などが語られ、充実したなかなビバ」となりました。

今回の「まなビバ」は、特別支援に関わる実践交流が多かったのですが、最後に、図工の絵画指導についての話しも出されました。

次回の「まなビバ」は、網走開催の予定です。組合員でない先生方にも声をかけながら、たくさんの人たちが参加されることを期待しています。